

## 平成30年4月、「かーさ・あもーれ」開設

近藤副施設長 に、かーさ・あもーれ（以下、あもーれ）について聞いてみました

### 「あもーれ」とは…

あもーれは、堺市初となる医療機関併設型小規模介護老人保健施設としての入所療養介護サービスの事業認可と短期入所療養介護（予防短期）サービス、通所リハビリテーション（予防通所）サービスの事業認可を受ける予定です。

介護老人保健施設とは、医療・介護・リハビリスタッフが連携しサービスを提供することで、在宅での生活が継続できるようにお手伝いする施設です。終末期ケアも重要な役割として考えています。

29床全室個室でユニットケアを行います。

### ユニットケアとは…

利用者を10人程度のグループ(ユニット)に分け、ユニットごとに食事や入浴などの日常生活を送り、少人数の家庭的な雰囲気の中で生活を共にしながら個別にケアすることを目的とします。

生活の場である自宅という環境を重視し、施設環境をより自宅に近いものとした上で、利用者の生活に視点を置き自己決定を支えます。

### 終末期ケア

在宅復帰のための中間施設としてある老健で、「終末期ケアも重要な役割」と考えていることに疑問を感じる方も居るかもしれません。「住み慣れた自宅で安らかに死を迎えたい。」と誰もが思っても、核家族化・老老介護・独居老人という様々な社会背景の中、思うような在宅死を迎えることができなったり、在宅看取りを支える家族の負担や不安が大きかったりします。そのような方に対し、ユニットという環境の中、施設で提供可能な医療を含めた看取りケアを提供します。終の棲家になる方はその人らしい看取りを共に考え、終末期であっても安定しているのであれば自宅に帰りたいたいという思いに寄り添い在宅復帰を支える、あもーれが考える終末期ケアです。

### リハビリへの期待

人は誰も「住み慣れたところで生活したい。」と願っています。住み慣れた場所に帰ってもらうためにリハビリテーション・生活機能訓練を行う。あもーれは自宅に近い環境の中で、利用者が「早く自宅に帰りたい。」という意欲を医師、看護・介護・リハビリテーションスタッフをはじめとする多職種で支え、利用者の生活に密着したケアの中からその人に合ったケアを、利用者多職種で共に考えていきます。

これらのケアを提供するには看護・介護が行う生活機能訓練だけでなく、リハビリスタッフが行うリハビリテーションが大きな役割を担っています。

では、あもーれで行われるリハビリについて紹介します。

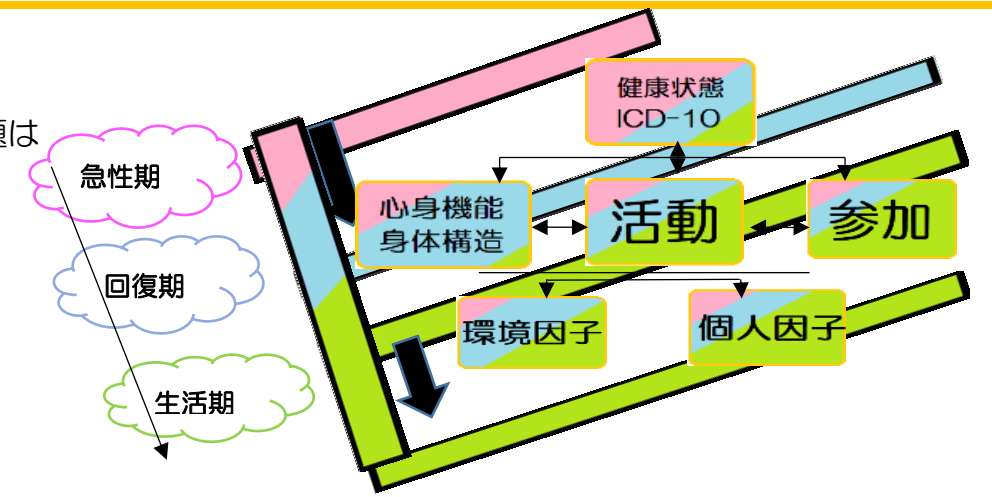
### 生活期のリハビリ

右記の図より、各時期の課題は

急性期は『疾病の治療』

回復期は『障害の回復』

生活期は『生活の再建』が挙げられます。



あもーれは生活期へのアプローチとなる為、『生活の再建』を課題として、リハビリを実施します。生活期は「障がいがあるからできない」という考えから、「障がいがあっても出来る」という体験を通し、本人が主体性を再獲得し、長期的な関わりを持つ事で、出来る事を増やす時期でもあります。

障がいを抱えながら「新たな生活」を構築していくこと＝『生活の再建』が大切です。

そこで！ 生活の再建を図る為には… 5つの目的が大切です。

- 主体性を引き出す
- 役割を持つ・主役になる機会を通じて自己存在を再確認
- 「出来る・出来た」の体験
- 自己決定・自己管理を尊重する
- あせらない・あきらめない

### あもーれでは…

#### ひだまりユニット

##### 在宅支援

在宅生活だけでなく、地域生活への参加を目指していきます。

個々のニーズに対応したプランを立てさせていただきます。

#### なぎさユニット

##### 療養生活支援

疾病や障がいの長い経過による廃用予防を行い、残存機能を最大限に発揮し生活できるよう心身機能の支援をしていきます。離床の習慣化を目指し、寝たきり予防を図り在宅生活を送れるよう努めます。

通所リハビリもあります！

#### せせらぎユニット

##### 看取り支援

安楽に過ごすだけではなく、身体機能や感覚に働きかけ生きる原動力につなげていきます。また、廃用による新たな苦痛を作らないように支援していきます。

在院日数の短縮・早期退院が進む中で、あもーれでは病院と併設しているため、病院スタッフがリハビリを行うため病院に近い質のリハビリを提供できます。また、在宅復帰を目指すにあたり、多職種と連携をとり、生活の中で利用者個人の能力を活かしながら過ごすことで、退所後自宅での生活に混乱なくスムーズに移行出来るよう働きかけます。



これらを目的に、リハビリで関わっていきます。

私たちの日常生活では、自分の意志・決定で日常を過ごすのが当たり前です。病院での入院生活で受動的に毎日機能訓練を受けていた一度依存的になった状態から、自らが主体に活動をしなくてはならない状況に置かれます。

自分で考え、自分の意志・決定で日常を過ごせるようサポートさせていただきます。